

事案名	陸軍造兵廠曾根製造所（北九州市）の事案（福岡県40-5）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・『曾根兵器製造所 その歴史と背景』平成12年〔1〕 ・『毒ガス戦関係資料』1997年〔2〕 ・「終戦時各補給廠ノ化学戦弾薬ノ状況」（作成主体、作成年月日は不明）〔3〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」〔4〕 ・「化兵剤及弾薬生産調査ノ件」12月26日〔5〕 ・Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume〔6〕 ・『朝日新聞』昭和47年5月27日〔7〕 ・医療手帳交付に対する事実調査の面接記録〔8〕 ・「昭和48年の『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について」平成15年8月〔9〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」〔10〕
資料内容概要	<p>東京第2陸軍造兵廠曾根兵器製造所においては、毒ガスを砲弾や爆弾に充填する作業が行われた。保有した毒ガス類の全てを占領前に海中投棄したとする情報がある一方で、占領軍の指揮下で海中投棄を行った情報も存在する。なお、北九州地区内及び海中投棄を行ったとされる海域（別府湾、苅田港等）では発見・被災事例が生じている。</p> <p>生産・保有情報（生産について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京第2陸軍造兵廠曾根兵器製造所は、昭和12年に当時の企救郡曾根村に開設した。そして、昭和13年から19年まで、東京第2陸軍造兵廠忠海兵器製造所で製造された毒ガスを砲弾に充填する作業を行った〔1〕。 ・曾根兵器製造所での毒ガス弾製造量は、軽迫95式あか弾643, 580発、野山砲92式あか弾393, 260発、軽迫95式きい弾87, 566発、10榴93式尖鋭あか弾：83, 300発、10榴92式尖鋭きい弾149, 800発、15榴93式尖鋭あか弾18, 178発、全92式あか弾20, 622発、全92式尖鋭きい弾67, 000発、15kg投下あか弾9, 164発、97式50kg投下きい弾1, 574発、100式50kg投下きい弾5, 135発であった〔2〕。 <p>生産・保有情報（保有について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終戦時に曾根兵器製造所には、各種あか弾3, 409発・各

- 種きい弾 12, 134 発・投下きい弾 7 発・投下あか弾 11 発(以上計 15, 561 発)が残存していた〔3〕。
- ・終戦時に曾根兵器製造所には 16, 000 発のガス弾が残存していた〔4〕。

廃棄・遺棄情報

- ・終戦時に曾根兵器製造所に残存した 50 kg 投下「瓦斯弾 1403〔発〕ハ終戦時海没セルモトス」とし、15 kg 投下あか弾については、「現在数 3258 ハ終戦時海没セリ」としている〔5〕。
- ・米軍は、あか弾 3, 000 発・きい弾 955 発及びあお弾 448 発は、日本軍により廃棄済であるとしている〔6〕。
- ・終戦当時、曾根兵器製造所には 50 kg 投下爆弾約 1, 000 発・榴弾や軽迫撃砲弾等は 20, 000 発単位で残っており、ガス液が 100 リットル入ったドラム缶も 30～40 本残存していた。これらは全部海中投棄することとなり、そのうち、ホスゲンと青酸の入った 50 kg 爆弾は主に小倉北区藍の島周辺海域に投棄した〔7〕。
- ・曾根兵器製造所に残存していた毒ガス弾等は占領軍がくる前に全て処分した〔1〕。
- ・元曾根兵器製造所員の証言として、「終戦時に残存した毒ガス弾等は、津村島の沖、豊後水道、別府湾等に海洋投棄した」としている〔8〕。

現在の状況

- ・陸軍曾根製造所は、現在陸上自衛隊小倉駐屯地曾根訓練所となっている。なお、過去に水源涵養林として民間へ処分及び開拓農地の用途として農林水産省へ所管後、民間へ処分されている〔9〕。
- ・陸上自衛隊小倉駐屯地曾根訓練場周辺井戸の地下水調査結果によると、ヒ素に関する異常はみられなかった〔10〕。